

**1 Michael Auslin (マイケル・オースリン) (優秀賞)**

年齢：1967年3月17日生れ（43歳） 国籍：米国

所属：アメリカン・エンタープライズ 公共政策研究所(AEI) アジア研究部門・日本研究部長

選考理由：多年にわたる近代日本研究の経験に基づき、日本を取り巻く米国、中国、アジアの現状や相互の関係を綿密に調査分析、今後、アジアは経済の統合が進む一方で歴史問題を巡る紛争の火種を持っており、安全保障上の重要な問題が生じやすいことを示唆し、そのような危機を回避するため、強固な日米同盟が不可欠との現実的で鋭い洞察力を持った論文を各方面に発表してきた。これらの活動は、現在揺れている日米同盟の重要性についての再認識を提唱するものとして、アジア太平洋地域の平和と安定のために資するものであり、今後、大いに期待されるものである。

2 Maria Reinaruth Desiderio Carlos(マリア・レイナルス・デシデリオ・カルロス) (奨励賞)

年齢：1969年1月2日生れ（41歳） 国籍：フィリピン

職業：龍谷大学国際文化学部国際文化学科 准教授

選考理由：フィリピン人看護師・介護士の国際的な移動に関し、両国におけるその効果についてミクロ経済データを活用しながら分析、研究、少子高齢化や労働力不足に対応するべく、看護・介護分野での人的交流についての情報共有、労働者等の教育、研修、資格、斡旋などの制度設計を提言。2006年の日本・フィリピン両国間での経済連携協定の動きと併せ、特に在日フィリピン人も含めたフィリピン人による日本でのあるべき介護活動モデルを開発、提言してきた。このような研究や活動は、アジア太平洋地域における真に豊かな社会の実現に結びつくものである。

3 Anies Baswedan (アニス・バスウェダン) (奨励賞)

年齢：1969年5月7日生れ（40歳） 国籍：インドネシア

所属：インドネシア・パラマディナ大学学長

選考理由：海外の大学で国際政治を学び、その学識経験等を踏まえて、インドネシアにおける政情やイスラム教徒の勢力状況を分析し、この国が近い将来、イスラム法を唯一の法源とする「政教一致国家」への道を進むことはないと予測した。さらに、アジア、太平洋地域の安定と平和のために、自国の目指すべき方向性や貢献の可能性について提言し、国際社会において相互理解促進のため多彩な活動を行ってきた。インドネシアのみならず、アジア地域における若きリーダーの実践している、これらの活動は、アジアの平和と安定に寄与するものである。

4 横田 徹 (よこた とおる) (奨励賞)

年齢：1971年5月7日生れ（38歳） 国籍：日本

所属：フォト・ジャーナリスト(フリーランス)

選考理由：1997年のカンボジア内戦以降、世界各地における戦争や紛争を追って、現地の各武装勢力への取材、米軍や韓国軍に従軍しての取材、貧困地域などでの取材を行い、現地の人々との信頼関係を築きながら、危険を顧みず、砲火の飛び交う戦場など最前線に赴き、独自の視点による映像の紹介により、その実相を広く世界に精力的に伝えていく活動を続けてきた。特にアフガニスタンにおけるフィールドでの活動は、国民世論における国際平和と安全の意識向上、世界情勢の理解促進に結び付くものとして高く評価されるものである。